



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和5年 11月 30日 12月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

「自分だけのお気に入りの勉強場所」を見つけてみよう

校長 黒木 健

以前、次のようなニュースを目にする機会がありました。ここ最近、図書館ならぬオフィスビルの中に開設されたプライベートスペースを備えた「学習室」が会社員などを中心に人気を博していて、ニュース映像の中でインタビューに答えていた利用者によれば、仕事を終え帰宅する前に「学習室」に立ち寄り、一定時間そこで勉強してから帰宅するのをパターンとしているそうで、一旦、帰宅してしまうと、なかなか勉強しようという気持ちになれないということや、或いは、資格取得のため、また、趣味としている領域の自主的な勉強のためなどといった理由を「学習室」の利用動機として挙げている方もいました。そして、偶然に目にしたこのニュース映像にも触発され、私も今年の8月（夏期休暇期間）から、似たようなことを始めてみることになったのです。

母校の大学で、確か卒業生であれば、大学構内にある図書館の会員になれたはずであったことを思い出し、大学のホームページを確認したところ、まだその制度が残っていることが分かりました。数日後、大学に赴いてその日から図書館会員となり、早速利用を始めることになりました。卒業してから長い時を経て、かなり久しぶりに図書館に足を踏み入れ、当時とそれほど大きくは変化していないフロア毎のレイアウトに懐かしさを感じながら、学生時代によく試験勉強やレポート作成をしていた場所をふと思い出し、その日はその辺りのデスクに腰を下ろして、数時間をそこで過ごしました。その初回利用日は、大学も夏期休暇中であったためか学生の利用もそう多くはなく、静寂の中で落ち着いて自分の勉強を進めることができました。

また、大学や公営の図書館などに限らず、最近では、書店内に安価な料金で利用できるラウンジやカフェを併設している大規模書店もあって、自宅であると勉強に集中しにくいという人にとっては（私もその一人ではありますが）、それらを勉強場所の選択肢に含めることも十分に「あり」なのではないでしょうか。ただ、どのような時に、またどのような目的から、どこの図書館やそうした勉強場所を利用するのかについては、人によって考え方やその頻度も千差万別でしょうし、例えば、図書館の利用目的だけをとっても、館内にある本を読むこと、本を借りること、館内で勉強することから、それらの組み合わせといったパターンに至るまで、これもまた人により様々でしょう。いずれにせよ、まずは、「自分だけのお気に入りの勉強場所」を見つけることが、その後の学習効果にもつながっていくのではないかと思います。

時代は遡って、私の高校生、予備校生時代のことになりますが、年間を通じかなりの頻度で予備校の自習室を利用していました。そして繰り返し利用している過程で、この校舎の自習室なら、この席といった具合に、いつしかこだわりのようなものも生まれ、その座を確保するために、開室前の長い列によく並んでいたものでした。それは、自分が気に入った席で勉強した方が、より集中できたからというだけではなく、その日に勉強したことが頭の中により定着したような感覚をもつことも出来たからなのかもしれません。そう考えると、そうした場所を見つけることは、効率的に勉強を続けていくための必要な通過点とも言えそうです。ご家庭におかれましても、例えば、家の中であっても、今勉強している場所にとらわれずに、お子さんにとっての「自分だけのお気に入りの勉強場所」を、一緒に見つけてみられてはいかがでしょうか。